

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 環境厚生分科会		会議場所 第1委員会室 担当職員 池永
日 時	平成28年9月16日(金曜日)	開 議	午後 3 時 40 分
		閉 議	午後 4 時 18 分
出席委員	馬場 平本 酒井 富谷 小川 奥村 福井		
事務局	門事務局長、池永主任		
傍聴者	市民 - 名	報道関係者 - 名	議員 - 名

## 会 議 の 概 要

### 1 開会

### 2 事務事業評価対象事業の論点整理

#### <馬場委員長>

事務事業評価は、事業の目的や手法、成果、コスト、方向性を視点として、評価を行う。実際の評価では、1事業45分の中で、説明約10分・質疑約10分、その後、委員間での議論を経て評価結果を出すということから、時間上の制約もあるため、議論の焦点とすべきことを事前に委員間で整理しておく必要がある。当日、その論点に沿った質疑を行い、適切な評価ができるよう、本日は論点整理を行う。関心のあることや、分からないことを聞くためだけの質疑で終わらないよう、議論の焦点とすべきことを整理したい。

#### (1) ごみ減量・資源化等推進事業経費

#### <馬場委員長>

事務局から資料の説明を。

#### <事務局主任>

(資料説明)

#### <馬場委員長>

論点整理資料によると、集団回収された資源ごみは3カ年で全て漸減傾向にある。パソコンの普及等によりペーパーレスが進んでいるということなのか。特徴的な傾向ではある。

#### <福井委員>

集団回収報奨金は、自治会等で集めているものを指しているのか。それが「交付団体(延べ)」ということか。

#### <馬場委員長>

そうである。

#### <福井委員>

前回の選定理由に「ごみの構成が変わり」とあるが、そうだとしたら、分別の効果が出ており、エコトピアもその傾向が出ている中、より詳細に分別をしていかなければならなくなるのか。そうした時、この取り組みをどう続けていくのか。

#### <馬場委員長>

論点の1つとして「現在の分別収集の方法と将来展望」ということで良いか。

<福井委員>

クリーンかめおか推進会議は、昨年も論点に挙げているが、どうなったのか。

<奥村委員>

クリーンかめおか推進会議という組織があり補助金を出しているが、実際には事務局を市が行い、広報や備品に使っている。推進協議会の委員が決めて、自分たちの補助金としてやっていこうということではなく、市が自由に使えるようになっていないかと指摘した。

<馬場委員長>

平成25年9月の事務事業評価で「クリーンかめおか推進会議のあり方を見直し、市民参画の工夫を図りたい」と意見し、昨年の事務事業評価でも「ありがたを工夫すること」と意見を出している。

<小川委員>

クリーンかめおか推進会議はこれまで2回事務事業評価に取り上げられているが、何も変わっていない。3回目があっても良いのでは。

<馬場委員長>

「クリーンかめおか推進会議の現在の到達点と今後の方向性は」でどうか。

<奥村委員>

集団回収報奨金は5円から4円にされたが、本当にそういう補助金が必要なのか。ごみ減量化のために、他に使うべきではないか。補助金を利用して広めてきたが、そういう時期は終わったのではないか。一定、ごみを集めて皆で出そうという意識が高まってきたら、なくても良いのではないか。業者からもお金が入っている。市がプラスアルファしていく必要はあるのか。

<馬場委員長>

「集団回収報奨金の必要性は」でどうか。私も同意見であり、お金になるから集めるのではなく、循環型社会をどうやって作っていくかを地域に根付かせる取り組みはどうかということである。

<奥村委員>

ある程度年数も経過し、490団体に浸透してきた。補助金がなくなった時にどうなるのか興味がある。そろそろアメを出すようなことはやめてはどうか。

<馬場委員長>

以上の3点「現在の分別収集の方法と将来展望」「クリーンかめおか推進会議の現在の到達点と今後の方向性は」「集団回収報奨金の必要性は」で良いか。文言調整は正副委員長に一任いただきたい。

<了>

## (2) 生活困窮者自立支援事業経費

<馬場委員長>

事務局から資料の説明を。

<事務局主任>

(資料説明)

<酒井委員>

生活相談支援センターに委託するという事は、委託料の範囲内で行っていた

くということである。実際の業務量により経費は増えてくるが、最初に決められた中でできているのか。相談に来られる人が多いと思うが、連携はどうなっているのか。何件か聞いたのは、市の窓口で相談した時、センターを紹介してもらえず、他から聞いて行かれたとのことである。

<馬場委員長>

委託の中身ということである。センターに対して市民からは好評な意見も聞く。

<富谷委員>

生活保護に至るまでの相談で、センターをよく活用している。

<奥村委員>

所長は保護関係のエキスパートであるが、今後の人材確保はどうか。

<馬場委員長>

論点は「委託事業の中身は何か、市役所との連携及び人材確保の状況」とする。文言調整は正副委員長に一任いただきたい。

<了>

### (3) 老人クラブ育成経費

<馬場委員長>

事務局から資料の説明を。

<事務局主任>

(資料説明)

<馬場委員長>

老人の数は増えているが会員数は減っている。

<福井委員>

この事業は、高齢者の外出・コミュニティという部分、健康寿命を延ばすための育成経費という観点をもっているが、育成していないのではないか。補助金を出しているだけなのか。どういう有用性、育て方をしていくのかは重要だと考える。

<馬場委員長>

「老人クラブの自主自立の指導方法は」で良いか。

<富谷委員>

健康、友愛、奉仕と3本柱がある。「健康」は健康のための取り組み、「友愛」はつどいや暮らしの支えあい、「奉仕」は清掃活動等かと思うが、具体的にどのように活動されているのか見えにくい。

<馬場委員長>

「老人クラブ育成経費の事業効果は」で良いか。

<奥村委員>

市から各クラブに補助金が入っている。また自治会や区、農家組合などから入っている地域もある。補助金を2重、3重に受けている実態もある。

<小川委員>

「いきいき活動」との関連はどうか。

<議会事務局長>

千歳町自治会等では「さわやかいきいき健康教室」等に取り組みられている。市の助成を受けて自治会でやっているものであり、これには該当しない。

<馬場委員長>

以上2点で良いか。文言調整は正副委員長に一任いただきたい。

<了>

#### (4) 地域生活支援事業経費

<馬場委員長>

事務局から資料の説明を。

<事務局主任>

(資料説明)

<奥村委員>

民生委員・児童委員が独居・障害を含めて家を訪問している。その人々とこういう相談支援との関わりはあるのか。

<馬場委員長>

事務局で調べていただきたい。

<小川委員>

精神障害者はなかなか相談にもいけず、表に出てこない部分がある。相談に行くところが分からないこともある。事業がどれだけ機能しているのか。民生委員等との横の連携はどれだけとれているのか。

<富谷委員>

近くに引きこもりの人もいるが、精神障害ではないかと思われる人を、どう受け止めて声かけしたら良いのか地域の人から分らず、警察に電話されたりする場合もある。住民への理解を促進するような啓発が大事である。必須事業として障害者の総合支援法にうたわれているが、予算に入っていないのではないか。また実際、「お結び」や「花ノ木」が、給付のいろいろな相談等でも手一杯なのに、新規の相談事業の窓口もしておられ、本当に機能しているのか疑問である。相談員も少なく、実際受け入れられているのか。報告のやりとりもどうしているのか。

<馬場委員長>

「障害者総合支援法のもとで、精神障害者等(引きこもりを含む)を地域で支えあうネットワークはどうなっているのか。」でどうか。今のところ「お結び」と「花ノ木」だが、場所が足りないとも聞く。また、「お結び」の場所を知らない人もいる。あわせて、広報や連携はどうなっているのかも加えてはどうか。

<了>

<馬場委員長>

その方向でまとめる。文言調整は正副委員長に一任いただきたい。

### 3 その他

<馬場委員長>

審査日程について事務局から説明を。

<事務局主任>

(審査日程について説明)

<馬場委員長>

20日の決算全体会には、「提出予定議案の概要」を持参願う。

散会 ~ 16:18